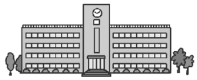


スクール便り



地域社会を支える技術者の養成を目指して

—秋田県立金足農業高等学校 環境土木科—

1. はじめに

本校は昭和3年に秋田県中央地区の産業教育（主に農業）を担う高校として創立され、平成26年度で創立86周年を迎えた。この間、2万人を超える卒業生（平成27年3月卒業で総数22,373名）を輩出している。また、卒業生の多くは県内に定着し、本県産業の中核を担う人材の育成に貢献している。

2. 学校の概要

学科構成は、農業科と時代とともに創設した関連学科とで7学科であったが、平成13年度入学生より学科改編に伴い6学科に減少、平成18年度入学生より6学科から5学科に減少した。平成25年度より、「生物資源科」、「環境土木科」、「食品流通科」、「造園緑地科」、「生活科学科」の5学科35人募集で1学年175名規模となり、都市近郊型農業地域であるため、生徒全体の約90%が非農家である。現在、生徒数は男子257名、女子283名、合計540名、学科・学級数は1学年5学科、合計15学級、教職員数67名の規模の学校である。



写真-1 秋田県立金足農業高等学校

3. 環境土木科の概要

昭和29年に設置した「農林土木科」は、昭和49年には「農業土木科」と学科名を変更、その後、平成13年度の学科改編を経て「環境土木科」に学科名を変更し、農林土木科設置から平成26年度で本校の土木科

は60周年に当たる。この間、卒業生は2,468名であり、多くの卒業生は国の機関や地方公共団体の技術系職員および土木や建設、測量や設計などの関連企業の技術者として活躍する。現在は、学科目標を農業土木技術者として必要な能力と態度を育て、時代の進展に対応できる人材育成として、生徒は1年生から3年生まで各35名の合計105名（すべて男子生徒）が在籍し、教職員は教諭4名、実習助手2名の合計6名で学習活動および学科運営を展開する。



写真-2 実験実習棟

4. 学習内容の変遷

昭和の木造平屋建ての実験実習室から平成の鉄骨二階建ての実験実習棟に変わり、測量機器であれば旧式のバーニヤ式トランシットから、新式のデジタル式セオドライトへの更新、そして、現在はトータルステーションのような最新機器導入など、アナログ式からデジタル式のように高等学校の学習環境が進展している。私たちの環境土木科の前身の農林土木科は、食糧問題や災害防止復興問題による八郎潟干拓や林地保全開発、農村の経済問題に関連する二男・三男の就職対策、林業県である秋田の森林土木関連の就職を考慮に入れ、土地改良、保全、開発および森林に関する農林業を支える技術者の養成という地域の強い要望で創設した。測量器具や実習機械が十分にそろわない当時ではあったが、農地や山林での測量実習、学校林の植林

実習、コンクリート実験や施工実習などの多くの体験的な実習ができていた。



写真-3 昔の実習

5. 学科の特徴的な学習

そこで、創設から60年が経過した本校環境土木科の特徴的な学習内容について紹介する。

はじめに、日本海沿岸の海岸林や県立公園など学校周辺の地域資源を活用した学習と、測量士補試験や2級土木施工管理技士試験などの資格取得を目指した学習では、基礎的な内容から高度で専門的な内容までの習得、業界の最先端の知識や技術の習得の機会としている。



写真-4 海岸林の現地学習会

二つ目の現場見学、インターンシップなどの体験的な活動の事前・事後指導では、見学先や実習先となる各種事業内容を把握させて実習に臨ませ、終了後にはレポート提出や報告会を実施している。そうすることで、専門的な知識や技術の習得に対する意欲と熱意をはぐくみ、関連企業や官公庁などの技術者としての社会的役割が認識できる。

三つ目の現場見学や現地調査、講演会などは、授業

や行事に連動させて実施し、農林水産省東北農政局、秋田県秋田地域振興局、秋田県建設業協会、秋田県土整備コンサルタント協会など関係機関の協力のもと実践的な内容に発展できている。

最後にインターンシップでは、国・県・市町村・消防などの官公庁、土木や建設、測量や設計などの関連企業、土地改良団体など、約20事業所の中から学習状況や進路希望などを考慮して、系統のかつ将来的な視点から実習先を選定している。



写真-5 インターンシップでの測量実習

6. まとめ

このように現在、環境土木科の学習には関係機関および団体から、さまざまな学習活動を理解の上、協力や支援をいただき、専門的で高度な内容で幅広く体験的な活動ができています。日頃の学習指導と評価からは、専門的な知識や技術の習得に対する意欲と、地域資源と地域活動に興味や関心を持たせ、そのことを自らの進路目標や人生設計に活用できる能力につなげていけたらと考えています。環境土木科の学習指導は、ものづくりのスペシャリストとしての能力と態度、地域に貢献できる人間性や社会性を育成して、将来は地域社会を支える技術者の養成を目指している。

7. おわりに

八郎潟干拓により大潟村が誕生して昨年50周年を迎えた。そして、平成27年8月その大潟村を会場に全国高等学校農業土木教育研究協議会秋田大会を開催する。この大会は農業土木研究協議会での単独開催としては最後になるため、記憶に残る研究大会が開催できればと思いながら大会準備をすすめている。全国高等学校農業土木教員の皆様を創立50年の大潟村でお待ちしている。

(秋田県立金足農業高等学校環境土木科
教諭 板橋 聡)